



JRC(青少年赤十字)登録式を実施

5月12日(金)の業前時間に、代表委員会主催による「JRC(青少年赤十字)登録式」を下記の次第で実施し、北小児童全員がJRCに登録をしました。

次第	1 開式の言葉(長口 蒼⑥)
	2 校歌斉唱(指揮：村口 香⑤)
	3 JRCについての話(水口 日⑤ 大④ 愛④)
	4 署名(黒口 羅⑥ 綾口 翠④) クラス代表=池口 心① 桐口 朝② 齋口 一③ 箕口 レ④ 渡口 さ⑤ 岩口 航⑥ 岩口 星③)
	5 署名用紙の提出(田口 天④ 福口 海④)
	6 1年生にバッジ授与(校長→児童会長：赤口 季⑥→池口 心①)
	7 校長先生の話
	8 ちかいの言葉(村口 香⑤ 水口 日⑤ 杉口 実⑥)
	9 JRC担当の先生の話(一円玉募金の使い途について=小口 貴先生)
	10 閉式の言葉(長口 蒼⑥)

《JRCの実践目標》

- 【健康・安全】 生命と健康を大切にする。
- 【奉仕】 人間として、社会のため人のために尽くす責任を自覚し、実行する。
- 【国際理解・親善】 広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う。



《JRCの態度目標》

「気づき」「考え」「行動する」



【JRCについての話】



【クラス代表による署名】



【署名用紙の提出】



【1年生にバッジ授与】



【「ちかい」の言葉を唱和】



【一円玉募金の使い途について】

JRC(青少年赤十字)登録式での校長の話(抜粋)

<JRCの起源>

JRCの起源は、1914年に始まった第1次世界大戦にあります。

同盟国であったドイツ、オーストリア、トルコ、ブルガリアと、連合国であったイギリス、フランス、ロシア、イタリア、アメリカ、日本が戦った戦争で、機関銃・飛行機・戦車などの近代的な兵器が使われたことによって、同盟国と連合国を合わせて900万人以上の兵士が戦死するとともに、民間人の死者が約1000万人、負傷者が約2200万人にも達してしまうという、これまでの戦争にはない悲惨な結果をもたらして、4年後の1918年に、同盟国の降伏でやっと戦争が終わりました。

主な戦場になったのはヨーロッパの国々で、長引く戦争によって、働き手である親を亡くしたり、家を破壊されたりして、毎日の生活に苦しんでいる子どもたちのことを知ったアメリカ、カナダ、オーストラリアの子どもたちが、何とかして励ましてやりたいと考え、学校の先生と相談して、学校で描いた絵や作文、家から持ち寄った学用品、包帯や机や椅子などを買ってもらうために集めた募金を「赤十字社」に持っていき、戦争の犠牲になって苦しんでいる子どもたちのいる国へ届けてもらおうと活動したのが、青少年赤十字の起源になっているということです。

<ちかい>

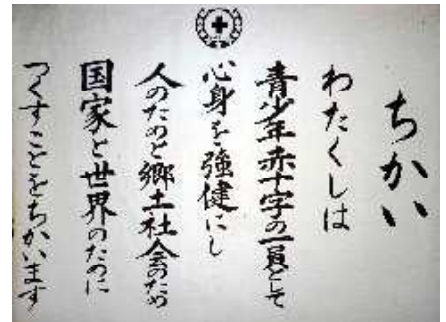
このことから分かるように、JRCの基本精神というのは、自分以外の人のために、できることを考えて、何かをすることにあります。

とにかく、誰かのために、行動を起こしてみることが大切で、その行動は国境を越えていくこともあるということです。

これから皆さんが述べることになる<ちかい>の言葉は、「わたくしは、青少年赤十字の一員として、心身を強健にし、人のためと郷土社会のため、国家と世界のために尽くすことを誓います。」となっています。

尽くす対象が、人のためだけでなく、郷土社会ため、日本ため、世界のためと、たいへん大きな広がりをもっていますので、あまり実感が湧かない人もいるかもしれませんが、<ちかい>を述べた今日これからは、皆さん一人一人が、この<ちかい>の内容に少しでも近づくように行動することを意識して欲しいと思っています。

それではなければ、<ちかい>にはならないと思います。



<JRCの態度目標>

JRCの活動でとても大切なこと、JRCのメンバーになった皆さんに求められことが3つありますので、それについて改めて紹介したいと思います。

1つ目は、まず、困っている人、苦しんでいる人がいることに「気づく」ということです。

2つ目は、気づいたら、どうすれば困っている人のためになれるのかを「考える」。苦しんでいる人のために自分には何ができるのかを「考える」ということです。

3つ目は、考えたら、まず自分が最初にやってみる。自ら進んで「行動する」ということです。

この、「気づき・考え・実行する」というのは<JRCの態度目標>と呼ばれているものです。

北小では、郷土桐生や日本や世界のために募金活動などを行っていますが、まず皆さんが行うべきこと、今すぐにでも皆さんにできることは、身近にいる人(友達や家族)のために、気づき、考え、実行する(尽くす)ことだと思います。

そして、この3つの態度が、友達のため、家族のため、学校のため、桐生市のため、地震の被災地のため、日本のため、世界のためというように、どんどん広がっていくべきであるというのがJRCの考え方になります。

<何から始めるか?>

では、皆さんは、一体何から始めたら良いのでしょうか?

それは、一人一人がもっと身近な友達や学校について、気づいたことがあったならば、小さな行動を起こしていくことだと思います。

全校児童182人が、1日1回でいいから、どんなに小さなことでもいいから、友達や学校のためになることを、自ら進んでやってみる。

ちょっとした親切、優しい言葉かけ、思いやりのある手助け、廊下のゴミを拾う、落ちている体育着の袋をフックに掛けてあげる。

色々あるかと思いますが、こんな小さなことであっても、自ら進んで行うことができれば、それは「JRCメンバーとしての立派な行動」と言えるのではないかと思います。

そういう一人一人の小さな行動が、毎日毎日たくさん積み重なっていけば、クラスのお友達同士がさらに仲良くなり、上級生は下級生から“頼り甲斐のあるお兄さんお姉さん”と慕われるようになり、喧嘩やいじめもなくなって、もっともっと楽しい北小学校になっていくと思います。

